

2016年3月10日
テオリア第42号

定価 350円
毎月10日発行
定期購読料 年間 4000円
半年 2000円

郵便振替口座 00180-5-567296研究所テオリア

θεωρία テオリア

発行 研究所テオリア
東京都千代田区内神田1-17-12
勝文社第二ビル101
TEL&FAX 03-6273-7233
ホームページ
http://theoria.info
E-mail: email@theoria.info

漂流するアベノミクス



止めよう！辺野古埋め立て＝2月21日

漂流するアベノミクス
アベノミクスの漂流が誰の目にも明らかになりつつある。

年明けからの世界同時株安が市場を襲った。原油安、中国経済減速、新興国からのマネー逃避が緩和マネーの逆流と縮小を引き起こした。安倍政権成立後、日本の株高・円安を引き起こしたマネーも離れた。何兆円もの赤字を出しながら、公的マネーで行われた株価操縦も限界だ。

日銀は慌てて「マイナス金利」導入を決定（1月29日）。円安・株高をめざしたが、効果は直ぐに消えた。一時、株価は1万5千円を1年4ヶ月ぶりに割り、円相場も1年3ヶ月ぶりに110円台まで上昇した。

昨年、安倍は「一億総活躍」と「新三本の矢」を打ち出したが、負担を女性、外国人労働者、非正規などに転嫁するものでしかない。

アベノミクスの「成果」の雇用増は非正規雇用増加であり、労働者実質賃金は低下を続けている。アベノミクスの実像は、株高と企業減税による富裕層と大企業の利益増だ。

一方で閣僚・与党議員の疑惑・不祥事にも関わらず、安倍政権の内閣支持率は若干の低下にとどまっている。背景には根強い「経済成長幻想」がある。これをいかに批判できるのかが問われている。（2月20日）

座標塾第12期

第3回 アベノミクス再審―税と社会保障から考える
講師 白川真澄
日時 3月18日(金) 午後6時半～9時
会場 文京シビックセンター13階会議室
参加費 1000円(会員500円)
※要申込
連絡・申込先 研究所テオリア
03-6273-7233
email@theoria.info

4・9～10三里塚ツアー

現地フィールドワーク 4月9日(土)午後1時(予定)
木の根交流会 4月9日(土)午後7時
木の根ペンション
解散・4月10日(日)正午(横堀花見参加は午後3時)
1次締切・3月25日/最終締切・4月4日
集合場所・料金等は問合せください
申込先 研究所テオリア email@theoria.info
TEL&FAX 03-6273-7233

国連・憲法問題研究会講演会

緊急事態条項 ココが危険
中井雅人(明日の自由を守る若手弁護士会の会)
4月23日(土)午後6時半
文京シビックセンター13階会議室A

報告64集

ここが間違いだ「安倍談話」
歴史認識を問う
山田 朗
定価 500円

紙面紹介

漂流するアベノミクス 白川真澄……………2～4面
三里塚闘争は何を問いかけてきたのか 中川憲一…5面
311から5年 フクシマに思うこと 青山晴江…6面
反核WSF 小倉利丸/福島原発刑事訴訟支援団…7面
武器輸出/現闘本部高裁判決抗議声明/反紀元節…8面

底知れぬ不安に揺れる世界経済のなかで 漂流するアベノミクス

白川真澄

2016年初頭、世界同時株安に直撃されて、アベノミクスは根底から揺らいでいる。これまで期待をつないできた人々も、大きな不安に陥っている。すでにアベノミクスの行き詰まりと破綻は覆い隠せなくなりつつあるが、筋書き通り「経済の好循環」が到来しないことに苛立つ安倍政権は、ますます思いつきの出したが、その効果はわず

か数日間で消えた。いま、アベノミクスは、底知れぬ不安が渦巻く世界経済に翻弄されて、迷走し漂流しつつある。

株価急落——世界的なバブル崩壊とマネーの逆流

世界同時株安の襲来

年明けから激しい同時株安が世界経済を襲い、暗雲が立ち込めた。日経平均株価も、昨年末の1万9033円から連日値を下げ、1月21日には1万6017円にまで急落した。3000円もの下落であり、東証一部の株式の時価総額は一時90兆円も失われた。

円から昨年4月には2万円台を超える勢いを見せた。この株高は、世界中に氾濫する緩和マネー（各国の中央銀行の異例の金融緩和策が生み出したマネーのこと、米国のFRBがリーマン・ショック後に供給した分だけでも4兆ドル）の流入によるものであった。もう一つの要因は、年金積立金など公的マネーの投入であった。

「日本の株高は、アベノミクスによるというよりも、それをきっかけとした緩和マネーの流入が引き起こした世界的なバブルの一環であった」(註)。そして、現在、バブルが破裂し、緩和マネーの世界的な逆流と縮小が起こっている。世界同時株安は、その表われである。

遊休、昨年のGDP成長率は政府発表でも25年ぶりに7%を割った。実際には5%台とも言われる。生産や固定資産投資の伸びも前年を大きく下回り、輸入はマイナス14・1%であった。

中国経済の失速は、フランスなど資源輸出に依存する新興国の輸出不振と景気後退を招いている。

第三は、原油価格の低落である。2014年前半まで1バレル100ドル前後で推移していた原油価格は、30ドルを割るまでに下落した。これには、新興国の需要減退に加えて、石油市場に流れこんでいた投機資金が引き揚げられたことも大きく作用している。

世界同時株安をもたらした3つの要因のうち、米国の利上げは再引き上げの先延ばしで影響が緩和されるとしても、中国経済の失速と原油安（チャイルショック）は短期間に変わる見込みはない。さらに肝心の米

国の急落はサウジアラビアなど産油国の財政赤字を急増させ、政府系ファンド（運用資金は7兆ドルとされる）が株を売って資金を引き揚げる動きを生んでいる。今回の世界同時株安の大きな原因は、このオイルマネーの逆流である。

緩和マネーは投資先をリスク資産（株式や原油）から安全資産（国債）に移し、日本でも外国人投資家（株式売買の7割を占める）が日本株を売って国債を買う動きが起こった。その結果、株価が急落する一方で、国債価格が上昇し長期金利（10年物国債の利回り）は0・190%と史上最低になった（1月14日）。安全資産として円（日本国債）が買われ、昨年11月には1ドル120円を超えていた円は、一時は1ドル115円の水準にまで急騰した。円高が進めば、円安で得られていた高い企業利益に影響が出てくる。

世界同時株安をもたらした3つの要因のうち、米国の利上げは再引き上げの先延ばしで影響が緩和されるとしても、中国経済の失速と原油安（チャイルショック）は短期間に変わる見込みはない。さらに肝心の米

国の急落はサウジアラビアなど産油国の財政赤字を急増させ、政府系ファンド（運用資金は7兆ドルとされる）が株を売って資金を引き揚げる動きを生んでいる。今回の世界同時株安の大きな原因は、このオイルマネーの逆流である。

緩和マネーは投資先をリスク資産（株式や原油）から安全資産（国債）に移し、日本でも外国人投資家（株式売買の7割を占める）が日本株を売って国債を買う動きが起こった。その結果、株価が急落する一方で、国債価格が上昇し長期金利（10年物国債の利回り）は0・190%と史上最低になった（1月14日）。安全資産として円（日本国債）が買われ、昨年11月には1ドル120円を超えていた円は、一時は1ドル115円の水準にまで急騰した。円高が進めば、円安で得られていた高い企業利益に影響が出てくる。

「日本経済の失速は、フランスなど資源輸出に依存する新興国の輸出不振と景気後退を招いている。」

米国の利上げ・中国経済の失速・原油安

緩和マネーの縮小は、3つの要因の複合的な作用によって起こっている。

第一は、米国のFRBが昨年12月に金融緩和政策

（ゼロ金利政策）を7年ぶりに転換し、金利引き上げに踏み切ったことである。これによって、中国や新興国からマネーが大量に流出

し、米国に漂流している。新興国からのマネー流出は、人民元安に代表されるように通貨安を招き、同時に新興国の景気を悪化させている。

「デフレではない状況」の怪

「デフレ脱却」はどのへん？

安倍首相はことあるごとに、「デフレではない状況を

では、現実はどうなっているのか。6月期もマイナス成長、7月～9月期は辛うじて1・0%のプラスに転じたが、10月～12月には再びマイナス成長になるとの見方が強まっている。アベノミクス

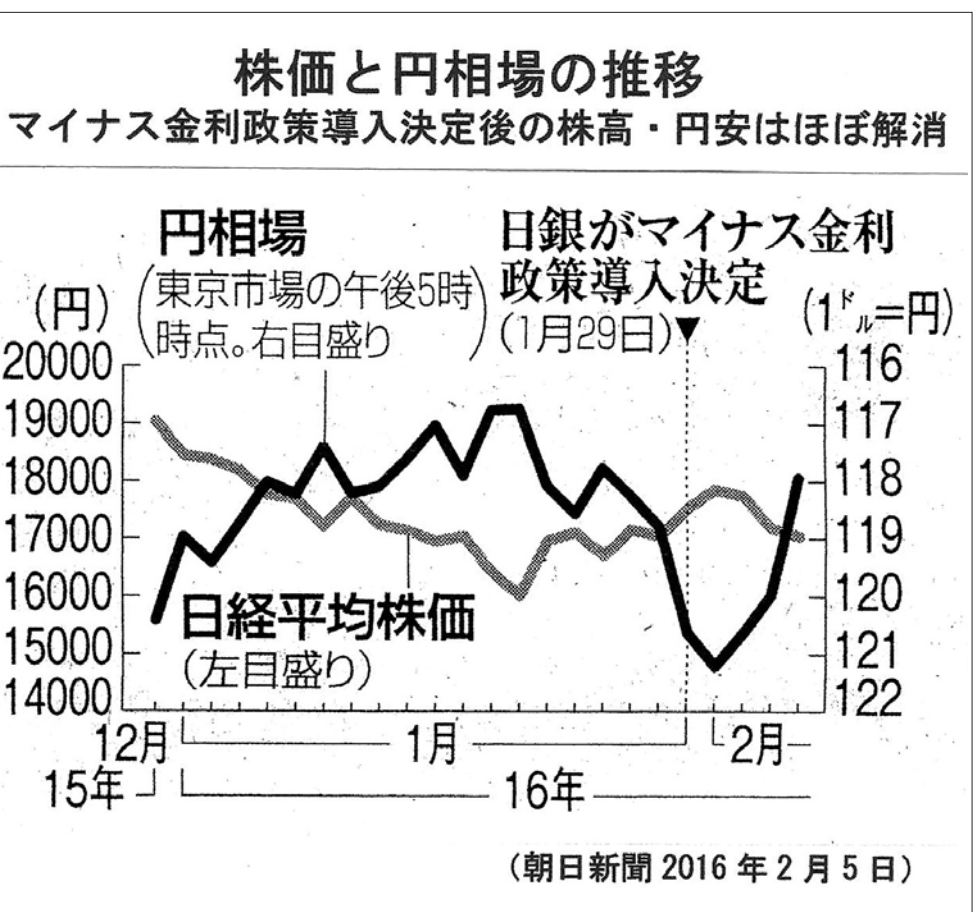
「景気回復」の実体——実質賃金低下と個人消費足踏み

「株高・円安で推進力を保ってきたアベノミクスは逆回転を始めている」（日本経済新聞1月22日）。

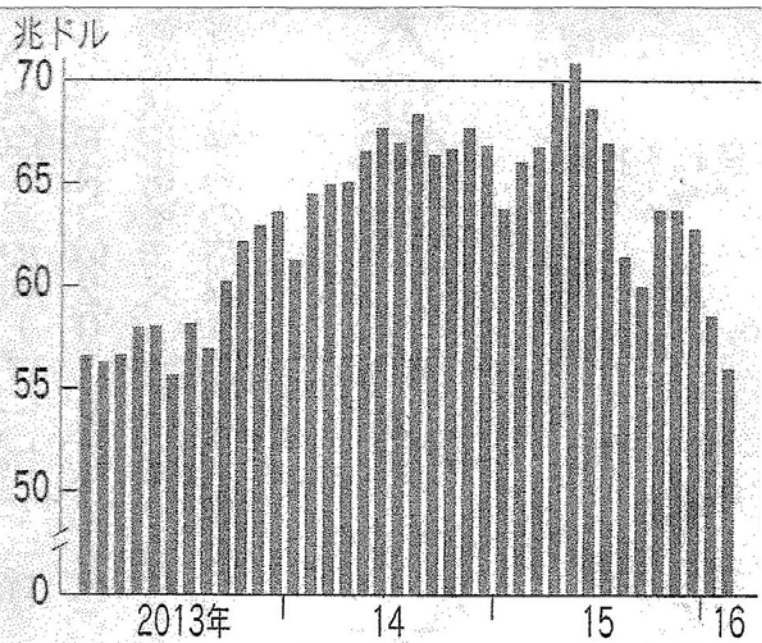
アベノミクスは、グローバル経済、とくに緩和マネーのおかげで株高・円安を享受してきたが、いまや世界経済の暗転と不安定化に翻弄されつつある。世界的なバブル破裂のなかで、「株高・円安で推進力を保ってきたアベノミクスは逆回転を始めている」（日本経済新聞1月22日）。

「株高・円安で推進力を保ってきたアベノミクスは逆回転を始めている」（日本経済新聞1月22日）。

「株高・円安で推進力を保ってきたアベノミクスは逆回転を始めている」（日本経済新聞1月22日）。



世界同時株安の進行 時価総額がピーク時の71兆ドルから56兆ドルに急減



出所：世界取引所連盟、一部推計
(日本経済新聞 2016年2月11日)

の掲げる2%成長にはとて
も届いていない。

安倍首相がアベノミクスの
成果として強調するのは、
雇用の改善である。た
しかに、失業率は3.1%
(15年10月)と「完全雇用」
に近い状態に改善され、有
効求人倍率は1.24にまで
上昇した。しかし、雇用の
質を見れば、非正規雇用の
増大がほとんどである。2
013年から2015年にか
けて、非正規は104万人
人増えているが、正規は11
万人増えただけだ。正社員
の有効求人倍率は、0.77
倍にとどまっている。

52%と賃上げが続いてい
る。大半が大企業の

正社員の数字である(東京
新聞1月20日)。労働者全体
の実質賃金は、12年と13年
はマイナス0.9%、14年
はマイナス0.9%、15年
はマイナス2.8%、15年
はマイナス0.9%と、4
年連続で低下したのだ。15
年7月に2年3か月ぶりに
プラスに転じたのも束の
間、11月には0.4%減、
12月にも0.1%減と再び
マイナスに転じた。

いる。実質消費支出は、15
年9月と12月と4カ月連続
のマイナスであった。また、
2010年1100とする
と、13年10月の99.8から
15年10月の93.9に低下し
ている。「雇用指標は改善し
ているのに、個人消費の足
踏みが続いている」(日本経
済新聞15年11月28日)状況
である。

個人消費の低迷は、全国
の百貨店売上げ高に見られ
る。15年のそれは0.2%
減と、4年ぶりに前年割れ
となった。東京・大阪・福
岡の3都市や免税店では売
り上げが伸び、「美術・宝飾・
貴金属」の販売は8.0%
増えているが、主力の衣料
品が3.4%減と落ち込み、

GDP600兆円の幻想

「新3本の矢」

安倍政権は、戦争法の強
行成立の直後に目先を変え
ようと、アベノミクス「新
3本の矢」と「一億総活躍
社会」なるものを打ち出し
た。

「新3本の矢」は、名目G
DP600兆円(希望を生
み出す強い経済)、希望出
生率1.8(夢をつむぐ、子
育て支援)、介護離職ゼロ
(安心につながる社会保
障)の3つである。従来の
「3本の矢」(異次元の金融
緩和、財政出動、成長戦略)
と「新3本の矢」とがどの
ような関係にあるのかは、
明らかではない。従来の
「3本の矢」を束ねて強化
した新たな第1の矢、「強い
経済」を放つ(一億総活
躍緊急対策)11月26日)と
だけ言われている。

「新3本の矢」の中心は、
名目3%・実質2%の経済
成長を続けてGDP600
兆円を2020年に実現す
ることにある。この
目標達成のために「一億総
活躍社会」が持ち出されて

増の1973万人と激増し
た。これだけが、アベノミ
クスの目標数値のうち前倒
しで唯一達成できたのだ。
中国人をはじめとする訪日
客の旅行消費額は3兆47
71億円に達し、これは電
子部品や自動車部品の輸出
額の1973万人と激増し
た。これだけが、アベノミ
クスの目標数値のうち前倒
しで唯一達成できたのだ。
中国人をはじめとする訪日
客の旅行消費額は3兆47
71億円に達し、これは電
子部品や自動車部品の輸出

「一億総活躍社会」という
言い方は、総動員体制を連
想させて実に気持ち悪い。
その狙いは、「少子高齢化の
進行」への対応である。つ
まり、人口減少による深刻
な労働力不足を「女性・若
者・高齢者・障害者等の活
躍推進」によってカバーし
て経済成長を復活させよう
というわけだ。

この巨額の内部留保の活
用先となっているのが、海
外でのM&A(合併・買収)
である。日本企業の海外M
&Aは、15年には初めて10
兆円を突破した。大企業の
パフォーマンスは、需要が
増えない日本国内ではな
く、海外で稼ぎ海外に投資
するというものに変化して
いる。国内主要企業の社長
を対象にしたアンケート調
査では、内部留保の活用先
としてM&A(および株主
還元)を挙げたものが45%
もあったのに対して、「賃上
げなど従業員還元」は15%
にすぎない(日本経済新聞
15年12月21日)。

た官民対話の場で、経団連
に設備投資10兆円増と15年
を上回る賃上げを約束させ
た。ところが、今年の春闘
では、連合の賃上げ要求は
2%(ベースアップ)、トヨタ
労組のそれは昨年の半額
にとどまっている。政府の
賃上げ要求水準のほうが
(ベースアップ)か年収かの
違いはあるとしても、労働
組合よりも高いという異常
な事態が起こっているのだ
がある。

いつまで経っても 「経済の好循環」は起らない

安倍政権が「新3本の矢」
を打ち出したのは、従来の
「3本の矢」が途中で折れ、
いつまで経っても「経済の
好循環」が出現しないから
である。いいかえると、ト
リクルダウンなど起こら
ず、企業の利益増大が労働
者の賃上げに還元され消費
拡大につながる本格的な景
気回復が生じていないから
である。竹中平蔵でさえ、
最近「トリクルダウンは
ない」と言い出している。

企業は、円安の恩恵で輸
出向け製造業大企業を先頭
に史上最高の利益を上げて

きた。経常利益は、13年度
59.6兆円、14年度64.6
兆円と、リーマン・ショッ
ク前の最高水準(07年度の
53.5兆円)を上回ってい
る。だが、それは賃上げや
設備投資に向かうよりも、
巨額の内部留保として積み
上がってきた。給与総額(民
間)が12年度の191兆円
から14年度の203兆円と
12兆円、設備投資額が12年
度の約65兆円から15年度の
約72兆円へと7兆円それぞ
れ増えただけなのにに対し
て、内部留保は2年間で50
兆円も増えて14年度には3

54兆円に達した。
この巨額の内部留保の活
用先となっているのが、海
外でのM&A(合併・買収)
である。日本企業の海外M
&Aは、15年には初めて10
兆円を突破した。大企業の
パフォーマンスは、需要が
増えない日本国内ではな
く、海外で稼ぎ海外に投資
するというものに変化して
いる。国内主要企業の社長
を対象にしたアンケート調
査では、内部留保の活用先
としてM&A(および株主
還元)を挙げたものが45%
もあったのに対して、「賃上
げなど従業員還元」は15%
にすぎない(日本経済新聞
15年12月21日)。

安倍政権は、膨らむ企業
利益が賃上げや設備投資に
回らない現実に苛立ちを募
らせてきた。そこで、法人
税率20%台への引き下げと
引き換えて賃上げ3%と設
備投資の増額を企業側に強
く迫った。労働組合を外し

この大幅な法人税率引き
下げは、消費税率引き上げ
(14年4月に3%、17年4
月に2%)とワンセットで
行われる。庶民に負担を転
化しながら、大儲けしてい
る黒字企業を優遇する、と
いう絵に描いたような不公
正税制である。

安倍政権は法人税率引き
下げを、企業の利益増大こ
そが「経済の好循環」の起
点になるという理屈で正当
化している。しかし、法人
税減税で増える企業の利益
は、すでに見たように内部
留保として積み上げられ海
外のM&Aに向かうだけで
ある。

第二のカードは、TTP

大筋合意である。10月5日
に日米など12カ国で合意さ
れたTTP協定は、付属文
書を含めた全容が公開され
ず、重要な事柄(食の安全
性など)の多くが今後の協
議に委ねられている、とい
うひどいものだ。

しかし、安倍政権は、T
PPを「アジア・太平洋地
域の成長を取り込みアベノ
ミクスの『成長戦略の切り
札』となるもの」(TTP
政策大綱、11月25日)と言
う。そして、TTPの発効
によって大きな経済効果が
生まれると吹聴している。

すなわち、GDPが13.6
兆円(2.6%)増え、雇
用も80万人増える、と。13
年の政府統一見解でのGDP
増3.2兆円(0.66%)
増、雇用増10と比べると、
数値がやたらと大きくなっ
ている。政府はその理由と
して、「聖域」を守ったこと
によって農林水産物の生産
減少額が3兆円(13年見解)
ではなく1300〜2100

第二のカードは、TTP

大筋合意である。10月5日
に日米など12カ国で合意さ
れたTTP協定は、付属文
書を含めた全容が公開され
ず、重要な事柄(食の安全
性など)の多くが今後の協
議に委ねられている、とい
うひどいものだ。

しかし、安倍政権は、T
PPを「アジア・太平洋地
域の成長を取り込みアベノ
ミクスの『成長戦略の切り
札』となるもの」(TTP
政策大綱、11月25日)と言
う。そして、TTPの発効
によって大きな経済効果が
生まれると吹聴している。



ドル/円
112.095
日経平均
14952.61

すで見たとように、「経済の好循環」という筋書きは、蓄額が増えているなかで、預貯金ゼロ世帯は2人以上世帯で30.4%、1人暮らし世帯では38.9%(14年)にもなる。格差と貧困の拡大は、アベノミクスの重大な弱点として次第に

目にも明らかになっていく。そうした世界経済のリスクの増大を計算に入れないTPPのGDP押し上げ効果は、絵に描いた餅に終わるにちがいない。

では、安倍流の所得再分配や格差是正の政策とは、どのようなものか。その第一は、低年金高齢者1100万人への一律3万円給付である。

これは、もともと14年4月の消費税率3%引き上げ時に逆進性緩和措置として低所得世帯に一律1万円を一回切りで支給したが、その額があまりに少ないので17年4月の再引き上げに際して6万円程度の給付が必要だという政府・与党内の議論が発端だった。ところが、まだ消費税率が再引き上げされていないのに、その1年前の6月に前倒して3万円を給付するのだから、誰が見ても夏の参院選向けのバラマキ、1100万票買収策である。

安倍政権は、「一億総活躍」(同上)と、あくまでも「成長」を優先し大前提にしている。しかし、国会論戦では、「公正な分配なくして持続的成長なし」と迫る民主党岡田党首に対して「成長によって分配が可能になり、分配によって持続的な成長が可能になる。成長と分配の好循環を生み出していく」と答えている(1月26日、衆院本会議)。

「分配」をテーマに取り上げることは、格差や貧困の是正のために政府が積極的な介入と施策を進めることを意味する。

「成長と分配の好循環」論

アベノミクスの本質は、経済成長主義である。経済が成長さえすれば、雇用も所得も税収も増え、財政危機も解決できるという考えである。その立場は基本的に変わっていないのだが、最近の安倍首相の発言にある変化が表れている。それは「成長と分配の好循環」(施政方針演説、1月22日)という言い方で、これまで口にしたかった「分配」に言及しはじめたことである。

現実によって裏切られ、トリクルダウンは起きていない。株高で儲けた富裕層や賃上げの恩恵を受けた大企業の正社員とそれ以外の多数のひびとの格差が拡大し、貧困が深刻化している。一例を挙げれば、13年度に1億円以上の報酬を受けた上場企業の役員は189社の360人と前年より2割増えたが、年収200万円以下の労働者は1139万人、全体の24%(14年)に達し、4年間で70万人増えている。また世帯の平均貯蓄額が増えているなかで、

「成長」なくして、「分配」を続けることはできません

「安倍流の格差是正策」

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

「成長と分配の好循環」論

三里塚闘争は何を問いかけてきたのか

管制塔から見た「成田」と50年の「三里塚」

中川憲一 78年管制塔占拠闘争元被告 報告

【三里塚闘争の開始から50年。1月30日、三里塚闘争50年 三里塚闘争は何を問いかけてきたのか】が行われた。78年3月26日の管制塔占拠闘争の記録映画「大義の春」の上映に続いて、中川憲一さん(管制塔元被告)が「管制塔から見た『成田』と50年の『三里塚』と題して講演。78年の開港阻止のたたかい、共に闘った故・原勲(82年死去)への想い、05年1億円カンパ運動などについて語った。以下が講演要旨】

「3・26」38年

今日は『大義の春』も、私の話を聞くのも初めての人が多くということで開催してよかった。

38年前の3月26日に開港直前の成田空港管制塔にかけのぼった。管制塔占拠の後、国から損害賠償請求を起こされ、確定した後、払わないでいたら、05年時効の数ヶ月前に私たちが被告に対する強制執行の訴えを起こされて差し押さえが始まった。連帯基金運動に取り組んで1億円を超えるカンパを集めることができた。

三里塚がなかったら、自分の人生はなんとつまらない人生だっただろう。三里塚で自分は人間の魂を鍛えてきたのではないだろう。自分にしかえがけないことを言葉で紡いでいかなければと強く思っている。

亡くなった父の一言『おまんは調子のいい奴や』。元々兄弟がいない。20歳の時に母を亡くし、67歳で96歳の父を送った。無口な父は多くを語らなかった。大学を出してもらい、27歳で事実婚をして、30歳の3・26決起。父にはわしの遺囑

祝いに泥を塗ったと飲む度に言われた。7年10ヶ月後、無事満期出所した。痔の手術の後、協同組合と出版物流で61歳まで働いた。61歳から遠距離介護が続いている。自分も調子のいい奴だと思っ

71年の第一次強制代執行の頃から三里塚に関するようになった。援農に入り、第一次・第二次代執行を闘いぬいた三里塚農民を感じた。国鉄職員からごみだとして捨てられてきた国鉄下請け労働者の身には農民との距離を感じなかった。

下りてくるシャッターをくぐって、ホールに直進。目の前のエレベーターが開いて、近くにいた仲間に乗れと言って、一番上のボタンを押した。目指すは管制室。14階で、16階の管制室につながっている扉は鍵がかかっており、たたいもピクともしなかった。機械室で仕事を行い、航空管制室への進入を試み、バルコニーに出た。



パラポラアンテナを伝って、地上62メートルII管制室にアタックを開始した。マンホール内の意志統一のときの太田敏之の一言が頭をよぎった。太田は『俺は一番上に行く占拠部隊だが、それをそれ行けるところまで行こう』と。私はI階で皆を上あげる役割分断だった。たまたま最後に走りきったところにエレベーターが開いた。

ガラス片を踏んでヒヤッとしながら、キャットウォークに手をかけ、何とか最後に管制室に引きずり入れてもらった。最後にマンホールを飛び出し、ピストルを構えた警官にけん制の火炎瓶を見舞い、管制塔I階に走りついたとき、喉がカラカラだった。

その時の弁護士の一言。「やったね。黙秘しようがしまいが、10年は出てこれないな。実刑6年の判決で未決算入して、7年10ヶ月の旅の始まりだった。佐倉署に移って、23日間の黙秘闘争が本格的に始まった。横堀要塞で逮捕された秋葉哲さん(三里塚芝山連合空港反対同盟救済部長)、S君(25日夜マンホールに入る直前に逮捕)が先客でいた。反対同盟の宣伝カーが連日激励に来てくれたが、「成田2164号、がんばれ」は一度も聞くことがなかった。

朝は誰よりも早く取調室に連行され、誰よりも遅く房に戻った。ある日のこと。23時近くに落ちた俺に留置所の担当が声をかけた。他房は夢の中だったろう。鉄格子に近づいて吸うかトライターでタバコに火を着け、テレビを見るかと、担当台で見ていたテレビを見せてくれた。ある日には担当から身の上相談を受け、警察組織の愚痴を聞いた。

地上

62メートルへ

1978年3月25日の午後8時。横堀部落の熱田一さんの家の庭に集結した。熱田テルさんが出てきた。『おめら、そんなこいねで、なかさ入れ』。庭に面した縁側のようなところで前田道彦隊長から作戦指示を受けた。

『空港包囲・突入・占拠。行けるところまで行くんだ』と自分に言い聞かせていた。そこに集まった全員

7年10ヶ月の《旅》

その日の千葉地検押送で弁護士接見があった。報道ヘリに向けて不敵にVサインする自分の朝日新聞の写真を見せられた。

ただでなく、かゆ食も何も言わずに認めてくれた。裁判の傍聴で上京した両親が東拘に面会に来てくれた。心配した母親(継母)の言葉を思い出す。「ピストルで撃たれんようにせんなんぞ」。

第一希望の網走刑務所は当然通らず、甲府刑務所でおつとめをすることになった。中央高速を単独VIP移送だった。

新人研修の後、皮革縫製工場に配属になった。初日、舎房の帰りに東拘で一緒だったヤクザのUさんが「いい夢見や」。

紙飛行機が似合う

「まさか。管制塔控訴審が始まったばかりの1982年4月16日、同志原が突然逝った。弁護士接見でそれを知らされた俺は泣いた。ただ泣き続けた。初殻の涙の厚さを超えることが未だにない。この後も無いだろう。その後何度も夢を見た。管制塔のキャットウォークに手をかけ、宙ぶらりんにあって力尽きる夢。ガラスの破片で足を滑らし、二重ガラスの穴からハンマーの勢いのまま落下する夢。

マンホールの中、俺たちが最後の意志統一をした。

「お互い死んでも恨みっこなしだぜ。同志原は俺の加賀一向一揆が元祖では無いかと勝手に思っている。『一向一心』。一向宗が城に攻め入って、『百姓が持ちたる国』を100年間続けた。

3・26の闘いも一つの目標「空港包囲・突入・占拠」をめざした闘いだ。そのことを実感したのが1億円カンパ運動の時。北海道から沖縄、韓国からも老若男女、赤ヘルはもちろん、元青ヘル、元白ヘル、反戦・全共闘の皆さんからも、2000人がカンパを寄せてくれた。

エピソードを紹介すると。その時に「78年当時中学生でした。管制塔占拠の闘いは自分の人生の方向を決定付けたと思っ

3・8分裂をめぐり内ゲバ、武力恫喝は一切中核派の責任だと考えています」という手紙を元中核派の現闘からいただいた。

私たち管制塔被告団は振込用紙に書いてくれた励ましの言葉に涙した。心が一つになった闘いへの参加を、ずっと誇りに生きていくことでしよう。2年後には「3・26」40周年の集いを予定している。

私の生きている間は無理かもしれないが、引っ剥がした滑走路で紙飛行機大会を開催するまでがんばる。同志原は三里塚には紙飛行機が似合うと意見陳述で述べた。心を一つにしてしぶとくがんばろう。

311から5年

青山晴江

詩人・原発再稼働阻止
全国ネットワーク

あの日から

5年が過ぎようとしてい
る、2011年311から。
この「5年」とはどういう
ものだったのか。日めくり
カレンダーが2千枚近くも
捲られひとりひとりの暮ら
しのうえにひらひらと舞い
降りていった、その歳月の
流れの海底に動くことなく
重く沈んでいるもの、それ
が福島原発事故であり今も
影を落としているものなの
である。

311当時の新聞を取り
出して開いてみる。朝日と
東京の1面大見出し。3月
12日「東日本大震災」「福島
原発、冷却不能か」13日
「福島第一原発で爆発」「1
号機 炉心溶融、建屋損傷」
14日「3号機も水素爆発」
15日「2号機 燃料棒露出
空だき 炉心溶融 原子炉
容器損傷 高濃度放射能放
出」「停止4号機も爆発」



大熊町、戻れぬ家で

16日「3号機から白煙」「4
号機再び火災」「20キロ先浪
江町 放射線量6600倍
に」……爆発の大写真の紙
面。

いまも恐怖に震える。歳
月が過ぎるにつれて記憶に
薄いシャドーを被せて(被
せられて)、日々の暮らしか
らだんだんと遠のいていき
そうだった、あの凍りつく
恐怖がまさきと蘇った。

そう、それは4基の原発
爆発は本当に起きたことだ
し、今もまだ現在進行形で
続いていることなのだ。

事故当時、テレビの情報
の乏しさに不安が増した。
CMは消え、金子みすずの
詩が繰り返された。私の住
む葛飾区の金町浄水場の水
道水から放射能が検出さ
れ、ミルクに使用しないよ
うに広報がでた。東電の計
画停電が実施され混乱が生
じた。気にしない人は、以
前と全く変わらない生活を
していた。しかし、気づい
た人も多かった。使ってい
りそぎ続ける放射能

た電気があんなに遠い福島
から送られていた、危険な
原発を押し付けていた、安
心安全の国策に絡めとら
れ、地震国いたるところに
原発があること。消費生活
へ流される暮らし方、隠蔽
体質の国が国民を守らない
こと……もう戻れないこ
と。

当時書いた詩です。「あの
日から」静かな朝/光はあ
ふれ/こぶしの花が咲き/
窓の外は青い/ラジオ
をつけると/スマタナのバ
イオリンが流れた/何も
変わっていないように見える
/冷凍しておいたシ
チューを/温めながら気づ
く/作ったのは/あの日よ
りも前/野菜も水も健やか
だった/普通に暮らせた
日々/どこに消えたの/
あの日から/何もかも変
わってしまった/地は揺
れ/空と海に広がり続ける
放射能/油断した私の手
から/これからの命に/降
りそぎ続ける放射能

弱者を追い詰める国

津波や原発事故の犠牲と
なった人々の辛苦は計り知
れない。人災である原発事

故により、故郷を追われ暮
らしを奪われた人々の無念
さは、年月が消してくれる

あるいは亡くなられたので
あろうか。以前、電車内の
広告で「原発はAからZま
でクリーンで安心です」と
貼ってあった。労働者の命
を縮める被ばく犠牲と、人
間の手に負えない行き場の
ない核廃棄物と、自然を持
たない汚染する原発、そん
なことはきれいに隠されて
いた。緊急作業時の被ばく
上限は250ミリシーベルト
のまま、「生涯線量1シー
ベルト」の新基準が盛り込
まれ、これらの規制委や厚
労省の動きは、原子力産業
の維持のための作業員確保
の被ばく対策と言っても過
言ではないといえよう。

原子炉ではメルトダウン
したままの核燃料がどこに
あるのか、まだ誰も見るこ
とができない。汚染水は海
へと流されるままに5年、
この先もたぶん。凍土遮水
壁は難航、海側で地下水
昇、溜まり続ける貯水タン
クのトリチウム汚染水は、
最終的には海洋放出と規制
委員長が認めている。「この
海は誰のものか。沖縄辺野
古のカヌーの海辺のカラ
チラシに書いてある言葉
だ。机に貼ってあるその写
真を見ながらつぶやいてみ
る。放射能汚染水を海の生
き物たちに流し続ける人
間。――この海は誰のもの
か。」

除染、核汚染物の中間貯
蔵地、焼却炉問題なども山
積みしている。除染で出た
汚染物をいれたフレコン
バッグは住宅地はじめ野山
に積み、5年経過で破れ

始め、台風で川に流された
りしている。福島県内です
でに1千万袋といわれる。
そして帰還政策である。
岩波国語辞典によれば「特
に、戦場から内地・基地に
帰る」とそれが帰還であ
る。営みからむりやり引き
剥がされ、先の見えない不
安のなかでの迷い。そのひ
とりの苦しみうえ
に、また放射線量の残る地
に、

へ、東京震が関から「帰還
せよ」と指令を出す。避難
者への住宅支援打ち切り、
帰還者のみ引越し費用補
助、早期帰還賠償、感謝料
の線引き……税金を政策優先
で使われ、人々は分断され
ていく。この国の冷たさと
寂しさ。それはまた、都会
で電気消費生活をしてきて
いる自分自身につきつけら
れた問いでもある。

福島風景、人々の声

郡山郊外の山懐に小さな
温泉があつて、そこで会っ
た小学2年生の女の子が話
してくれた。「朝7時に集団
登校で学校に行くの。ホッ
トスポットを避けてずっと
遠回りするから朝が早く
なったんだ。」そぼおぼあ
さんが「孫が心配でなりま
せん。娘は、放射能を気に
していたら生活できない。
仕事も家もなく子ども3
人連れてどこへ行けという
の？気にしないで生活して
いくしかない、そう言うん
です。」

湯煙のなかでため息をつ
かれた。2年前のことであ
る。山桜のつぼみが宿り木
の間から見えていた。ふつ
うに暮らしているようにみ
えても、不安と葛藤のなか
で、しかたのない選択をし
て、自分に言い聞かせなが
ら日々を送られているのだ
ろう。

福島市の街のはずれに3
棟の仮設があつて、訪れた
夕方、ふと垣間見たガラス
戸に、通夜の光景があつた。

高年齢者の残る仮設。幹線道
路わきの埃っぽいコンク
リートの敷地、脇の路地の
向かいには、汚染ごみの黒
いフレコンバッグが7層に
も積み上げられていた。小
雪の舞う寒い日。野山の美
しい故郷から避難し、戻れ
ることなく、仮設の部屋で
どんな日々を送られ、どん
な思いで亡くなられたのか
……。
昨年のことだが、思い出
すたびに胸がつかれるよう
な気がする。

帰還困難区域・大熊町の
Kさん宅に、月1度の帰宅
許可時同行させてもらっ
た。庭の草茫茫。軒下18
マイクロシーベルト。室内
はねずみと動物の糞。柿の
実が枝に残り、冷たい秋雨

にぬれていた。ここにはも
う戻れない。大熊の町はど
こも荒れて、それは以前
行ったチェルノブイリの無
人の村そのもので、一瞬め
まいを起こしそうになっ
た。同じだ。田畑も原野
になり、寂しい風景だった。
都路、14年4月に避難指
示を初めて解除された田村
市の地区。早期賠償や税の
優遇などをもらわず、孫娘
のために家に戻らず他所で
暮らすWさん。幼女時に戦
争を体験して、国は民を助
けないということを目にし
て知っているWさんは、
村の身のまわりで反原発や
放射能の話ができる人がい
ないと、淋しそうに言われ
た。梅林に日が傾き、風が
さわさわと通り過ぎていっ
た。

しかし、それでもなお希
望を未来に見据えたい。鹿
児島川内原発の砂浜の夕
陽。福井県高浜原発の山際
の野生サルたち、再稼働と
いうことがいかに暗愚なこ
とか教えてくれるものに目
を凝らし、行動していきな
い。フクシマの犠牲と、フ
クシマで出会った人々の哀
しみと温かさを心に呼び起
こしながら。

国連・憲法問題研究会報告63集

日本軍「慰安婦」問題

何が問われているのか

梁澄子

定価 500円

核と被ばくをなくす世界社会フォーラム2016 核の軍事利用と核エネルギーを問う

小倉利丸

核と被ばくをなくす世界社会フォーラムが3月23日から28日にかけて、東京と福島で開催される。これまで反グローバリゼーション運動や反戦運動の国際連帯運動を担ってきた「世界社会フォーラム(WSF)」のテーマ別フォーラムという位置づけで実施される。また、ノーニクス・アジアフォーラムの協力も得て、アジア各国の反原発運動の草の根の活動家たちが多数参加するだけでなく、チェルノブイル事故の現地ウクライナ、原発大国フランスの原発労働者、原発建設が予定されているブラジルなどからも参加が予定されている。

WSFは、90年代に世界規模で高揚した新自由主義グローバリゼーション反対運動を継承しつつ、多様な運動のゆるやかな連帯を通じて「もうひとつの世界」を模索する場所としての役割を担うものとして、2001年冬にブラジルで第一回が開催された。この年の9月に「同時多発テロ」が起き、「対テロ戦争」の時代が始まり、日本も日米同盟の片割れとしてこの戦争に加担してきた。WSFは、こうしたグローバルな戦争

を食い止めるための対抗的な国境を越えた運動としての役割も担ってきた。21世紀にはいって、従来の反グローバリゼーション運動がターゲットにしてきた欧米中核諸国や多国籍企業による南の諸国・地域への支配による貧困と軍事的な不安という構図が、新たな様相を見せ始めた。ひとつには、中国、インド、ブラジル、ロシアなどのいわゆる新興国の影響力が強まり、16世紀以来欧米が構築してきたグローバリ資本主義の国際秩序に亀裂が生じてきた。WSFを開催してきたインドやブラジルは、20世紀の世界システムでの

周辺諸国から地域ヘゲモニーを握る地域大国になり、これらの諸国の運動の課題もこうした地政学的な変容を踏まえた役割を模索せざるを得なくなってきた。他方で、中国やロシアは、欧米にかわる覇権の地位を狙って経済的軍事的な中核へと移行しつつあるために欧米との摩擦が高まっている。更にこうした「大国」の思惑の外側に、国民国家的な統治とも近代の理念とも相容れないいわゆる「テロリスト」たちの動きが生まれてきており、西欧近代の理念も統治制度もいずれも揺らぎ始めている。

第三世界との連帯が必須に
WSFは、今世紀に入っ

て深刻化してきた第三世界における新たな核の脅威に必ずしも高い関心を抱いてこなかった。しかし、上で述べたように、インドやブラジルなどWSF開催国の核推進政策や、野放図に拡散しつつある核開発への危険感が、とりわけ福島以降大きく盛り上ってきた。また、核廃棄の実現には、社会運動が抑圧されている中国やロシア、中東諸国の民衆との連帯が必須となっており、これが今回の核問題のフォーラムの開催を促した背景にある。

3月に開催されるフォーラムは、規模こそささやかなものだが、23日オープンング集会、27日には原発輸出、被ばくしない権利、被ばく労働問題、国際原子力ロビー問題、原発と原爆、原発と気候変動などテーマ別分科会を開催し、28日には参議院内集会や被ばく労働問題集会在開催され、映画やアートの企画も予定されている。会場は、東京水道橋の韓国YMCAなど。また、24日にはいわき市でも集会を開催する。詳しくは

http://www.nonukes-socialforum.org/ をご覧いただきたい。また、カンパも募っている。(宛先は上記ウェブを参照)

(同フォーラム事務局)

な意味と原発輸出は、切り離すことがますますできなくなりつつある。言うまでもなく、チェルノブイリや福島の事故だけでなく、イラク戦争などで使用された劣化ウラン弾などの通常兵器に組み込まれた核兵器がもたらす深刻な被害の問題は、ますます多くの紛争地域に拡散するだろう。原発の第三世界での新増設は、成長神話に支えられてその傾向を強めつつあり、同時に、これらの地域で莫大な数の被ばく労働者を生み出すことにもなる。同時に原発の拡散は、核兵器に転用可能な技術の拡散を意味しており、核拡散防止の枠組はもはや通用しなくなってきた。

このように、世界の覇権構造が転換点を迎え、亀裂と動揺が生じている現在、冷戦体制のなかで構築されてきた「核」をめぐる二つの問題、すなわち、核の軍事利用と核エネルギーの問

題もまた、この全体構造に規定されて、特有の危機を内包するようになってきた。端的にいえば、ロシアや中国が推進する原発輸出がこれら諸国のグローバルな覇権指向と不可分に展開されており、これに對抗して、日仏英米といった旧来の覇権国家が第三世界における核開発の主導権を維持しようとしていることである。核それ自体が潜在的に有している軍事的

な意味と原発輸出は、切り離すことがますますできなくなりつつある。言うまでもなく、チェルノブイリや福島の事故だけでなく、イラク戦争などで使用された劣化ウラン弾などの通常兵器に組み込まれた核兵器がもたらす深刻な被害の問題は、ますます多くの紛争地域に拡散するだろう。原発の第三世界での新増設は、成長神話に支えられてその傾向を強めつつあり、同時に、これらの地域で莫大な数の被ばく労働者を生み出すことにもなる。同時に原発の拡散は、核兵器に転用可能な技術の拡散を意味しており、核拡散防止の枠組はもはや通用しなくなってきた。

このように、世界の覇権構造が転換点を迎え、亀裂と動揺が生じている現在、冷戦体制のなかで構築されてきた「核」をめぐる二つの問題、すなわち、核の軍事利用と核エネルギーの問

題もまた、この全体構造に規定されて、特有の危機を内包するようになってきた。端的にいえば、ロシアや中国が推進する原発輸出がこれら諸国のグローバルな覇権指向と不可分に展開されており、これに對抗して、日仏英米といった旧来の覇権国家が第三世界における核開発の主導権を維持しようとしていることである。核それ自体が潜在的に有している軍事的

な意味と原発輸出は、切り離すことがますますできなくなりつつある。言うまでもなく、チェルノブイリや福島の事故だけでなく、イラク戦争などで使用された劣化ウラン弾などの通常兵器に組み込まれた核兵器がもたらす深刻な被害の問題は、ますます多くの紛争地域に拡散するだろう。原発の第三世界での新増設は、成長神話に支えられてその傾向を強めつつあり、同時に、これらの地域で莫大な数の被ばく労働者を生み出すことにもなる。同時に原発の拡散は、核兵器に転用可能な技術の拡散を意味しており、核拡散防止の枠組はもはや通用しなくなってきた。

このように、世界の覇権構造が転換点を迎え、亀裂と動揺が生じている現在、冷戦体制のなかで構築されてきた「核」をめぐる二つの問題、すなわち、核の軍事利用と核エネルギーの問

題もまた、この全体構造に規定されて、特有の危機を内包するようになってきた。端的にいえば、ロシアや中国が推進する原発輸出がこれら諸国のグローバルな覇権指向と不可分に展開されており、これに對抗して、日仏英米といった旧来の覇権国家が第三世界における核開発の主導権を維持しようとしていることである。核それ自体が潜在的に有している軍事的

な意味と原発輸出は、切り離すことがますますできなくなりつつある。言うまでもなく、チェルノブイリや福島の事故だけでなく、イラク戦争などで使用された劣化ウラン弾などの通常兵器に組み込まれた核兵器がもたらす深刻な被害の問題は、ますます多くの紛争地域に拡散するだろう。原発の第三世界での新増設は、成長神話に支えられてその傾向を強めつつあり、同時に、これらの地域で莫大な数の被ばく労働者を生み出すことにもなる。同時に原発の拡散は、核兵器に転用可能な技術の拡散を意味しており、核拡散防止の枠組はもはや通用しなくなってきた。

このように、世界の覇権構造が転換点を迎え、亀裂と動揺が生じている現在、冷戦体制のなかで構築されてきた「核」をめぐる二つの問題、すなわち、核の軍事利用と核エネルギーの問

この国を変えるところまで進んでいく。差別と分断が今の福島の中にあり。原子力ムラは放射能安全神話を出し、年間被ばく線量20ミリシーベルトまでは我慢しろとなっている。受け入れないと非国民扱い。被災者・避難者は苦しむばかり。被災者を貧困の淵に落とそうとする強制帰還政策を許さない。切捨てを許さない大きな運動を。発言中に福島からのバスが到着。満場の拍手を受けた。次に支援団団長の佐藤和良さんは「強制起訴をうけて支援団として新しく固まる。民事訴訟もあり、裁判で原因・責任を明らかにしていく。再稼働が進められているが、今も11万人が避難している。転倒した日本を参加者が合唱した。」

原発事故の刑事責任究明へ 福島原発刑事訴訟支援団が発足

この国を変えるところまで進んでいく。差別と分断が今の福島の中にあり。原子力ムラは放射能安全神話を出し、年間被ばく線量20ミリシーベルトまでは我慢しろとなっている。受け入れないと非国民扱い。被災者・避難者は苦しむばかり。被災者を貧困の淵に落とそうとする強制帰還政策を許さない。切捨てを許さない大きな運動を。発言中に福島からのバスが到着。満場の拍手を受けた。次に支援団団長の佐藤和良さんは「強制起訴をうけて支援団として新しく固まる。民事訴訟もあり、裁判で原因・責任を明らかにしていく。再稼働が進められているが、今も11万人が避難している。転倒した日本を参加者が合唱した。」

福島原発刑事訴訟支援 1.30 発足のつどい



1月30日、福島原発刑事訴訟支援団1.30発足のつどいが東京・目黒で行われた。会場は400人以上の参加者でいっぱい。巨大な企業犯罪・権力犯罪である福島第一原発事故の刑事責任を追及して1万4716人が告訴・告発を行い、福島原発告訴団の連動が継続されてきた。検察が「原子力ムラがソープのようによみがえり、被害者・被災者を苦しめている。犠牲者が切り捨てられる。原発推進の国家総動員体制こそ、事故の根本原因。」

切り捨てられる フクシマの今

2月14日、福島原発事故緊急会議第10回シンポジウム 福島第一原発事故から5年 切り捨てられるフクシマの今。そして加速する原発再稼働がスペースたんぼで行われた。参加者は50人。シンポジウムでは武藤類子さん(福島原発告訴団副団長)は「7千人の労働者が福島第一原発で収束作業に当たっているが、凍土壁は果たして凍るかも分からない。県内各地に除染土のフ

レコンバクが置かれたまま。一方、原発メーカーは原発事故処理利権で再び儲けている。毎時4〜7マイクローベルトになる国道6号を1日1万台がノーチェックで走っている。チェルノブイリでもチェックが行われているのに。帰還政策の一環として自主避難者への支援を打ち切るうとしている。政府は事故を終わりにしたい。彼らにとって避難者は邪魔。子どもや学者を使って安全プロパガンダが行われている。福島から何も学んでいない。あきれた無責任体制だが、あきらめない」

「死の商人国家」への道を許さない

武器輸出反対ネットワーク発足

は小型武器軍縮会議で武器輸出三原則を持つ日本をモラルハイクラウンドと誇ったが、今やモラルハザードになっている。当国は米国の後押しを得て仏独と競っているオーストラリアへの潜水艦輸出と空対空ミサイル・ミサイルの日英共同研究を食い止めた。

14年4月1日、安倍政権は武器輸出三原則を撤廃。15年10月1日には防衛装備庁を発足させ、武器輸出の動きを加速させている。

2月7日、「武器輸出反対ネットワーク」(NAJAT)発足集会「Made in Japanの武器はいらない」が都内で開かれ、22人が参加した。

講演した杉原浩司さん(同ネットワーク代表)は「人を殺す武器の輸出は戦争への加担。掘地徹防衛装備庁装備政策部長の名前を覚えて帰ってほしい。彼は14年パリ武器見本市で『イスラエルの機体と日本の技術を併用していろいろな可能性が出てくる』と述べた。イスラエル軍が占領地で2000人以上を虐殺していた時期だ。

猪口邦子軍縮大使(当時)

軍学共同は研究者版経済

古賀茂明さん(元経産省職員)は、「集団的自衛権、NSC、秘密保護法は三点セット。秘密保護法の制定で政府は嘘でも最長60年間秘密にできる。戦争するハードルがものすごく下がる。情報公開法の改正が必要だ。」

池内了さん(宇宙物理学)は、「軍学共同反対アピール署名の会で署名運動をしている。」

防衛省技術研究本部との技術交流が04年から行われている。技術ノウハウの交換から防衛省予算化される。JAXAの赤外線センサ開発予算は14年4800万円が15年48億円になった。ミサイルで使える技術。研究本部の公募制度には54大学が応募し、4大学が採用された。その内の1校の豊橋技術科学大学は、学長が日本学術会議の大西隆会長。

日本の学会は公式には軍事研究を拒否してきたが、研究費がほしい状況で、「科学技術の発達」「デュアルユース(軍民両用)」などを言い訳にしている。

日本の防衛省予算5兆円のうち、1・57兆円は企業発注分。経団連の防衛産業委員会会長は三菱重工。宇宙開発推進委員会委員長は三菱電機。

13年5月経団連は防衛計画大綱に向けた提言を出したが、事態は提言通りに動いている。



安倍戦争国家と

天皇制を問う

反「紀元節」行動

2月11日、安倍戦争国家と天皇制を問う2・11反「紀元節」行動が東京・原宿で行なわれ、100人が参加した。

集会では須永守さん(近現代史研究)が講演。

「1月フィリピン訪問で天皇は戦死者を慰霊した。天皇は戦争の犠牲の記憶の

継承を語り、戦没者に同情するが、戦争責任については語らない。

敗戦直後、戦争犠牲者遺族同盟の運動があったが、分裂して日本遺族厚生連盟ができ、日本遺族会となった。戦没者を平和の礎と位置づけるようになったのは1952年5月第1回戦没

者追悼式から、『受難者』とされた戦没者は戦後日本国家の平和の礎であると、『貢献者』とされた。戦没者・遺族・天皇の三位一体の構造がある。

現在、『平和の象徴の天皇』が安倍政権の積極的平和主義の歯止めと思わされていることが天皇制と安倍政権の役割分担

集会後、渋谷までデモを行った。途中、警察による不当な規制によるデモ妨害が行われた。

三里塚反対同盟声明

東京高裁の横堀現闘本部破壊を追認する

不当判決を弾劾する

2月3日、東京高裁民事12部(杉原則彦裁判長)は反対同盟に横堀現闘本部の建物の撤去を求める成田国際空港株式会社の主張を認め、一審千葉地裁の判決に不当として控訴した反対同盟に対して控訴棄却の決定を言い渡した。

空港会社は別の訴訟で土地のすべてを取得したとして、建物の撤去と土地の明け渡しを求めて提訴した。空港会社は誘導路用地内にある建物が「朽廃」し、

空港運用上妨げになるとして反対同盟に撤去を求めた。しかし、建物が「朽廃」した原因を作り出したのは空港会社である。2006年、突然現闘本部に至る道路を一方的にバリケード封鎖し、所有者の往来、管理を不可能にした。空港会社は裁判で「1998年1月の旗開き以降一切使用していない」と事実を反するでっち上げの主張を行った。反対同盟は証拠を挙げた。反対同盟は証拠を挙げた。反対同盟は証拠を挙げた。

また、反対同盟は裁判に提訴して強制的手段によって事を進めることは成田空港シンポジウム(1991年)、円卓会議(1993年)での「平行滑走路の整備に

高裁は「円卓会議での合意において、あらゆる意味での強制的手段が用いられなければならないことが明示的に確認されたのは、平行滑走路のための用地の取得についてであること、また少なくともそれ以外の用地の取得について、純粹に民事上の紛争について民事訴訟の手續きによる解決を求めることを排除するものでないことは現判決のとおりである。」と三里塚闘争の歴史性から切り離し、切り縮める判断を下した。

さらに高裁は、「なお、仮に上記合意が民事裁判をし

おいては、あらゆる意味で強制的手段が用いられてはならず、あくまでも話し合いにより解決する」という信義則に反すると主張した。

高裁は「円卓会議での合意において、あらゆる意味での強制的手段が用いられなければならないことが明示的に確認されたのは、平行滑走路のための用地の取得についてであること、また少なくともそれ以外の用地の取得について、純粹に民事上の紛争について民事訴訟の手續きによる解決を求めることを排除するものでないことは現判決のとおりである。」と三里塚闘争の歴史性から切り離し、切り縮める判断を下した。

さらに高裁は、「なお、仮に上記合意が民事裁判をし

合理的な努力を相当期間にわたって継続しても、なお解決に至らない場合には、民事裁判による解決を求めることが許されると解すべきである」と念を押した。

また、「円卓会議での合意から長期間が経過し、その前後を通じて被控訴人(空港会社)や国が、話し合いその他の方法による解決の努力を続けてきたことに照らせば、民事裁判による解決を求めることも許される」として空

港会社を擁護した。これは高裁が時間が経てば円卓会議の合意は時効であると云ったに等しい。また、「解決の努力を続けてきたことに照らせば」とは、どんな一方的で相手に取って受け入れ難い要求であっても、既成事実をアライバイ的に積み重ねれば「努力」したとして容認されるべきであ

る、とも言っているのだ。こんな空港会社擁護一辺倒の判決を断じて認めるところは出来ない。

裁判所は歴史的に成田空港問題の当初以来、空港公団の時代から空港会社の主張を全面的に追認してきた。

反対同盟はかかる不当な判決に断固抗議し、最高裁に上告して最後まで闘い抜く決意である。

2016年2月13日

三里塚芝山連合空港反対同盟(代表世話人 柳川秀夫)

加瀬勉さん談話

反対同盟を「権力能力なき社団」と認定し、空港会社の「職権乱用」を全面的に認めた今回の東京高裁の不当判決に断固抗議する。我々はただちに最高裁に上告し最後まで闘うことを表明する。

三里塚大地共有委員会代表 加瀬勉

- インフォメーション
- 原発のない福島を「県民大集会2016」
- 3月12日(土)正午開場/郡山市・開成山陸上競技場/実行委員会
- 戦争法を廃止へ安倍政権は退陣を3・19集会
- 3月19日(日)正午/日比谷野外音楽堂/総がかり行動
- 核と被ばくをなくす世界社会フォーラム2016
- 3月23日(木)28日(月)/韓国YMCA他/同事務局
- 原発のない未来へ1・3・26全国集会
- 3月26日(日)12時半/代々木公園/さようなら原発100万人アクション、他
- 2015年戦争法反対運動から未来へ
- 4月2日(土)午後1時半/文京区民センター/反安保実